

令和6年度 箕面市行政視察報告書

(建設水道常任委員会)

1 日程

令和6年(2024年)11月20日(水)～11月21日(木)

2 視察先

(1) 佐賀県武雄市

視察項目	きたがた四季の丘公園におけるインクルーシブ遊具の整備について
視察目的	インクルーシブ遊具を導入した経緯と導入後の現状を確認し、箕面市で行われる今後の公園整備事業へ活用する。

(2) 佐賀県神埼市

視察項目	日の隈公園キッズパークの整備について
視察目的	インクルーシブ遊具と大型複合遊具および健康遊具の導入経緯と整備現状を確認し、箕面市で行われる今後の公園整備事業へ活用する。

3 参加者

委員	村川真実委員長、大脇典子副委員長、牧野寿美委員、牧馨委員、武智秀生委員
----	-------------------------------------

1) 佐賀県武雄市

項目	内容	備考
概要	<p>-人口：47,914人</p> <p>-世帯数：17,624世帯</p> <p>-面積：195.40km² 東西19.4km、南北18.4km</p> <p>佐賀県の西南部に位置する。</p> <p>-沿革：平成18年3月に武雄市、山内町、北方町が新設合併し、現在の武雄市が誕生。</p>	説明者：武雄市議会事務局長
きたがた四季の丘公園整備概要	<p>-整備年度：平成5年度～平成7年度に掛けて整備</p> <p>-開園日：平成8年8月9日</p> <p>-公園面積：約9,6ha</p>	説明者：都市政策課
公園の再整備とインクルーシブ遊具導入の経緯	<p>開園時から設置してきた遊具が老朽化し、更新時期のため、遊具選定の際に業者からの情報でインクルーシブ遊具の存在を知らされる。体が不自由な子どもや小さな子どもも遊ぶことが出来るインクルーシブ遊具を設置することで、子育て環境をさらに充実させるとともに、市内外からの誘客や交流人口の増加を目指し、市外からの移住や定住につなげることを目的とした。</p> <p>また、先にインクルーシブ遊具を先駆けて設置した佐賀県神埼市の日の隅公園キッズパークを参考にするとともに、近隣の障害児施設の職員や、障害児のいるご家族と当事者の意見を聞き取りし、意見を取り入れた。</p>	
市民の反応と利用状況	<p>令和元年度（コロナ禍以前）に17,748人の利用者があり、令和5年度には32,472人の利用者増。コロナ禍を経て公園の価値が見直されたと考えている。</p>	
他の市内公園でのインクルーシブ遊具の導入予定	<p>現時点で具体的な導入の計画はないが、武雄市個別施設計画の中で、長寿命化を図っていく公園については、遊具等の更新を随時検討していきたいと考えている。</p>	
通常の遊具との費用面の違い	<p>一般的な遊具とインクルーシブ遊具の費用を比較してみると、3割ほど割高な傾向がある。理由としては、特別なサンシェードやスロープなどの設置が必要となるため。</p>	
健康遊具は設置しているか	<p>特に健康遊具の設置はしていない。要望があるので設置の検討はするが、財源の問題がある。</p>	
公園管理者の勤務体制	<p>きたがた四季の丘公園の管理は2名の会計年度任用職員を任用して直営で対応している。勤務時間は8:30～17:15で2日交替勤務。12月28日～1月3日の年末年始は休み。</p>	

公園管理に市民がかかわっているか	一部市民団体により、年に数回程度の除草などのボランティアは行っていただいている。他、地域の住民・学校もボランティアで草刈りや清掃をしてくださっている。	
駐車場の整備やトイレのバリアフリー化について	駐車場やトイレも遊具の近くに必要のため、整備した。トイレは誰もが利用できる「みんなのトイレ」を新設した。	
人気の遊具	児童向けと未就学児向けに遊具を2タイプに分けたことで、広い年齢層の子どもがお互いに安全に遊べる環境を作った。高学年は大型遊具の人気があり、未就学児等には車いすでも利用できる砂場も人気が高い。砂場の砂は管理人から補充要請があれば適宜補充する。	



所感

九州初のインクルーシブ公園である神埼市の日の隈公園を参考にされ、さらに一歩進んだ配慮がなされた箇所が随所に見られて、とても勉強になった。遊具の下にはカラフルなゴムチップマットが設置され、足の負担軽減のみならず、転倒した際の衝撃緩和にも大きく寄与するとのことで、耐久性の問題もあるが、このようにみんなにやさしい配慮があった。「駐車場やトイレも遊具の近くに必要」と動線にも配慮がなされていた。トイレも「みんなのトイレ」がすぐあり、総合的な整備であると感じた。

2) 佐賀県神崎市

項目	内容	備考
概要	<p>-人口：30,332人</p> <p>-世帯数：12,421世帯</p> <p>-面積：125.13km²、地目別では山林・原野が約66%、田畑が約28%、宅地は全体の5%強</p>	説明者：神崎市議会議員
日の隈公園キッズパーク整備概要	<p>-施行期間：令和3年10月29日～令和4年3月15日</p> <p>-供用開始日：令和4年3月19日（土）</p> <p>-公園面積：39,000m²（内、整備面積およそ1,831m²）</p> <p>-事業内容：遊具の更新工事、駐車場整備工事（駐車場ライン引き、車イス用駐車場増設）、看板設置工事（既存看板盤面貼替、新設看板増設）</p>	説明者：都市計画課
公園の再整備とインクルーシブ遊具、健康遊具を導入した理由	<p>神崎市の二次総合計画に掲げている、“幸せ”を感じる誰もが安心して暮らせる環境の充実と、当時はコロナ禍でステイホームを強いられている状況で、三密を避けた公園環境において、心身ともにリフレッシュできる場所が求められていた。安全に市民の皆様に楽しんでいただける公園環境整備を目的として日の隈公園の再整備を行った。大人向け健康遊具、複合遊具、九州初のインクルーシブ遊具を導入することで市のPRにもなり、年齢、性別、文化、個性を気にせず誰もが安心して利用することができる公園として、また、子どもたちが様々な利用者と遊びを通じて関わることで、人との接し方、思考力、想像力など様々なことを学ぶこともできる公園となる。</p>	
市民の反応と利用状況	<p>無料で開放している公園であるため、具体的な利用人数の把握はしていないが、大幅に利用者数が増加した。駐車場が満車になることが多くなり、駐車場の増設も行った。市内幼稚園や学校での遠足利用も増えており、利用者からは好評で、市内の障がい者福祉施設でも利用されている。</p>	
他の市内公園でのインクルーシブ遊具の導入予定	<p>現時点で具体的な導入の計画はないが、それぞれの公園のコンセプトを踏まえて、中長期的な観点で各公園での検討を行っている。</p>	
通常の遊具との費用面の違い	<p>導入時に一般的な遊具とインクルーシブ遊具での費用の比較検討はしていないが、特別なサンシェードやスロープなどの設置が必要なので、一般的な遊具よりは高額になっている。</p>	
健康遊具は設置しているか	<p>インクルーシブ遊具設置エリアの北側のエリアに健康遊具エリアを設けている。散歩がてら立ち寄り方以外にも、子どもを遊ばせている間に親が使用していることもある。</p>	

市内公園の維持管理、安全点検について	<p>年次安全点検など専門知識が必要な項目については、委託契約によって業者に発注している。</p> <p>市内公園の基本的な維持管理は、会計年度任用職員が行っており、除草や修理・修繕を行っている。遊具の事故防止に関しても会計年度任用職員に指導を行い、管理点検を行っているが、現時点で大きな事故等は起こっていない。</p>
公園管理者の勤務体制	<p>市内の公園と建物施設を含め 16 箇所の維持管理を行うために 12 名の会計年度任用職員を任用して直営で対応している。旧神崎町と旧千代田町で、全体として各 3 名ずつ管理者を配置して、月あたり 15 日から 17 日勤務いただいている。それ以外に、日の隈公園専任で 1 名の管理人が配置されている。</p>
公園管理に市民がかかわっているか	<p>主に市民団体により、年に数回程度の除草などのボランティアは行っていただいている。</p>
駐車場の整備やトイレのバリアフリー化について	<p>駐車場は満車になることがあったため、後で増設したが、トイレはすでに身障者用のトイレがあったため、今回の再整備では特に何もしていない。</p>
インクルーシブな街づくりについて	<p>令和 6 年 3 月に策定している、第 3 期神崎市障がい者計画において、「障がいの有無に関係なく地域の中で支え合い共に生きるまちづくり」を基本理念としており、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入を推進している。</p>
インクルーシブという言葉の周知、広報はどのようにおこなっているか	<p>市の広報で公園再整備の際に周知は行った。メディアや県の広報誌で取り上げられることもあり、問い合わせいただくこともある。また、障がい者福祉施設からの問い合わせも増えている。</p>
人気の遊具	<p>高学年は大型遊具が人気があり、車いすでも利用できる砂場も人気が高く、適宜、砂の補充が必要。</p>
入札の方法	<p>コンペ形式で遊具を選定。選定基準は、デザイン、機能、安全性、維持管理、取組姿勢、保証、企業実績。</p> <p>遊具メーカーを決めた上で、指名競争入札を行った。1 時間以内に日の隈公園に来れる業者 6 社に見積もりを依頼し、遊具選定委員会を開催し、指名委員会により施工業者の入札参加者を決定した。</p>



所感

広大な公園であり、会計年度任用職員が維持管理をしっかりとされており（武雄市も同様でした）、遊具の安全点検のみならず芝生等の手入れについても行き届いている印象を受けた。九州初のインクルーシブ公園でもあり、「インクルーシブ遊具エリア」と「大型複合遊具エリア」とわかりやすく説明がされた看板も設置されていたり、「あそびかたのちゅうい」もすべてひらがなで、誰にもやさしい表記など、本市にも必要なものだと感じた。駐車場を増設する対応もされたり、健康遊具エリアも設けられ、家族全員が利用できる公園となっているなど、さまざまな観点で市のPRにも結果的になったが、そのみならず「人との接し方、思考力、想像力など、さまざまなことを学ぶこともできる公園」となっていることを大いに実感した。ぜひ、箕面市での整備にも活かしていきたい。